

出光委員からのアドバイス等について

番号※	アドバイス等
8	<p>海水ポンプエリアの床ドレンライン(逆止弁付き)の排水能力が確認できれば、排水設備は必要無いことが確認出来るのではないかと。九州電力へ確認した上で、床ドレンラインの逆止弁が異物によって閉塞しないような対策がとられていれば対策は十分だと理解できるのではないかと。</p>
10	<p>航空機落下確率は、発電所敷地全体の落下確率としてはいくらになるのかを確認し、基準値(10⁻⁷回/炉)を超えるようであれば、火災対策として全搭載燃料の燃焼を想定することが妥当と理解できるのではないかと。</p>
11	<p>水は4℃で最も密度が高くなる。水の温度や密度変化に伴う実効増倍率の変化を考慮した審査がされているかを確認することは重要。</p>
16	<p>審査書には、「燃料の種類、燃料装荷パターン及び燃焼度が異なる炉心間の比較解析により確認している。」とあるが、炉心の状態は、運転開始直後の初期と、運転終了間際の末期では、炉心を構成する燃料中の残存反応度と冷却水中のほう素濃度が大きく違ってくるので、どのような炉心状態(初期、中期、末期など)のパターンを審査されたのかを、プルサーマル炉心を含めて確認してはどうか。</p>
17	<p>放水砲に抑制効果があるとすると放水後の水は汚染水となる。仮に放水作業員やその他の屋外作業員に降りかかるような場合や、予期しなかった場所に集水した場合には、作業員の被ばく線量が高くなり作業に支障がでるおそれがあると考えられるが、そのような観点からの審査は行われているか。</p>

※資料5-2-2の確認事項案番号